

1.

教員・授業 ・勉強・研究 について

学部・学科への満足度

80.1%の学生が入学した学部・研究科にほぼ満足

入学した学部・研究科に満足している学生ほど、授業にも満足する傾向が顕著

授業への興味

多くの学生が大学の授業に興味をもつ

90.9%の学生が授業に興味が「ある」
しかし、授業の満足度は必ずしも高くはない

講義の選択基準

授業は講義内容で選択

授業を選択する基準はやはり「講義内容」 **42.8%**

出席率

出席率は学年が上がるにつれ低下

1、2年生で高かった出席率も3、4年生で低下
4年生は就職活動の影響が大きい？

教員とのコミュニケーション

教員とのコミュニケーションが重要

履修した講義には興味を感じている
教員とのコミュニケーションが大学への
満足度を高める

勉強時間と図書館の利用

授業以外の研究・勉強時間は週5時間程度

毎月1、2冊の本を読み、
週に5時間程度勉強する

勉強と進路

大学で得たものは進路先でも役立つ

大学生生活で得た知識・能力が進路先で役立つと
「思う」 **44.0%**、「やや思う」 **35.2%**
その傾向は授業の満足度が高い学生ほど顕著



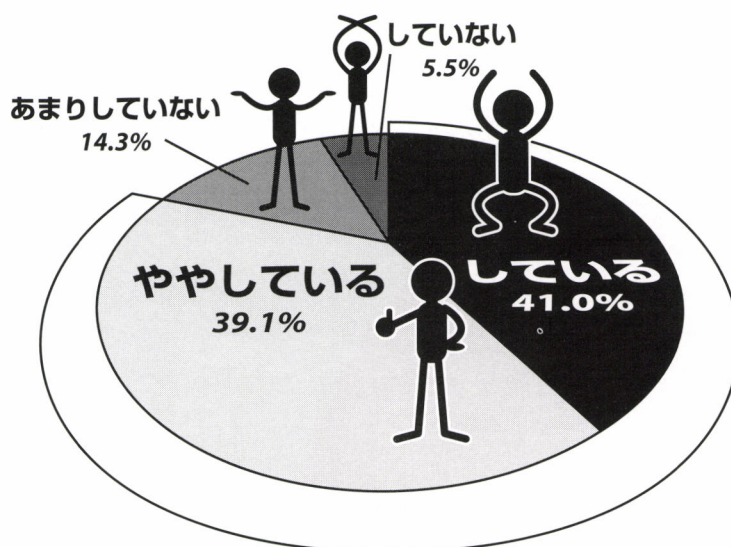
1. 80.1%の学生が 入学した学部・研究科にほぼ満足



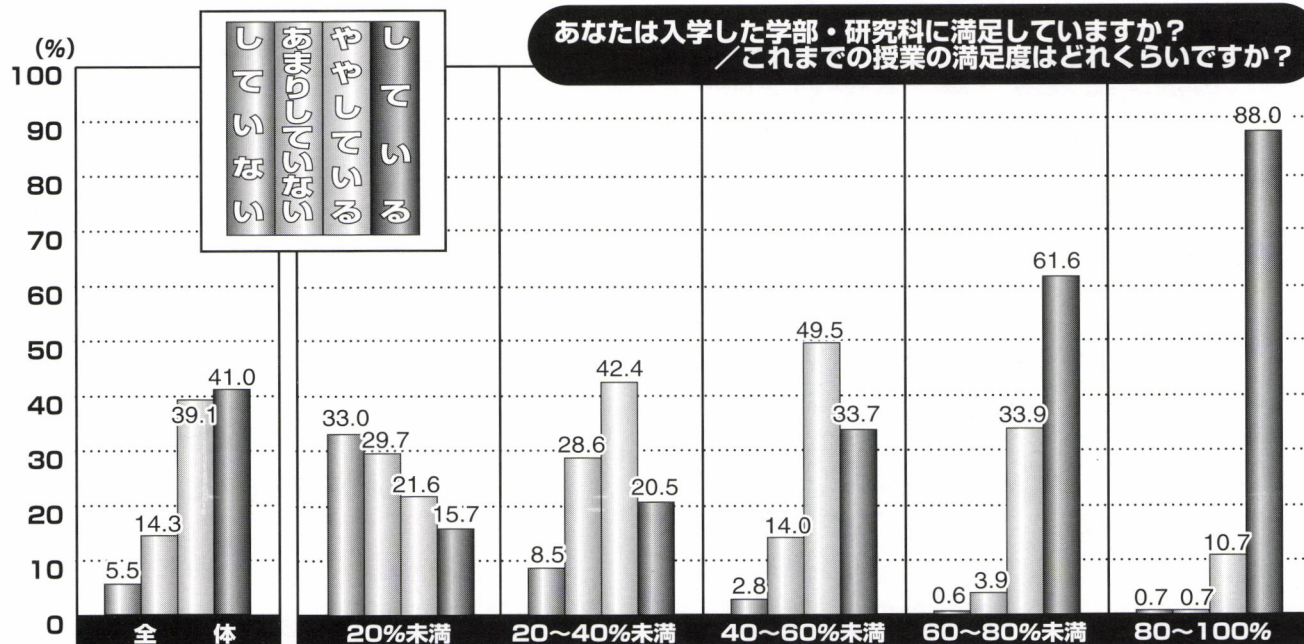
入学した学部・研究科に満足している学生ほど、
授業にも満足する傾向が顕著

80.1%の学生が、入学した学部・研究科にほぼ満足している（ややしている、している）と答えています。また、授業の満足度と、入学した学部・研究科への満足感をクロス集計の結果から検討すると、授業に80%以上の満足感を覚えている学生の大部分(88.0%)が、入学した学部・研究科に満足していると答えており、授業に対する満足度が高いほど、入学した学部・研究科に満足している傾向が高いことが読み取れます。満足している理由には、専攻分野の適性と授業の内容、施設・設備、将来の進路に有利である点や自分の適性などが挙げられています。また、社会人学生が高い満足度を示していることも特徴的です。

あなたは入学した学部・研究科に満足していますか？



あなたは入学した学部・研究科に満足していますか？
／これまでの授業の満足度はどれくらいですか？



さらに、「早稲田大学が好きですか」という問いに対しても、学部・研究科に満足感を覚えている学生はYesと答える傾向が強く出ています。

一方で、入学した学部・研究科に満足していない学生の約3分の1は、早稲田大学が好きではないと答えています。

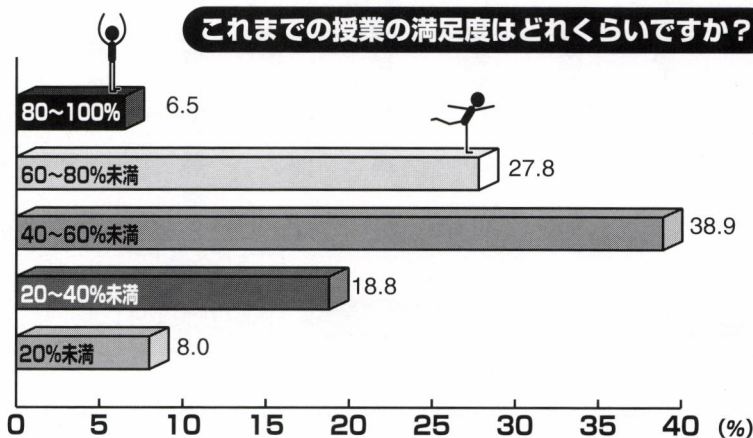
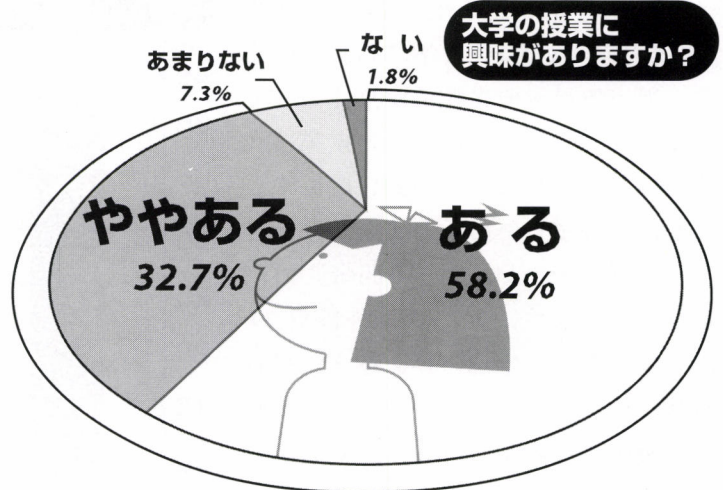


2. 多くの学生が

大学の授業に興味をもつ

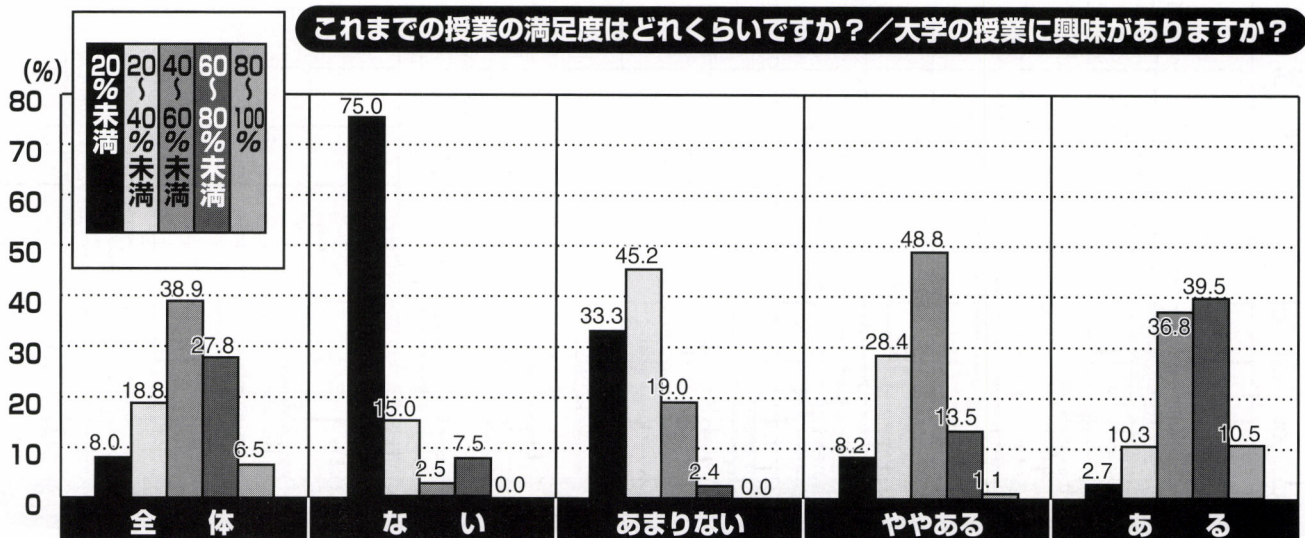
POINT → **58.2%**の学生が授業に興味が「ある」
しかし、授業の満足度は必ずしも高くはない

90.9%の学生が、大学の授業に興味を持っています。学部学生は学年に関わらず、授業に高い興味を示しています。大学院学生は学部学生より高い興味を示しています。ところが、授業の満足度については、あまり高くはないという結果が得られています。ほぼ満足(60%以上満足)と答えている学生は全体の34.3%にすぎません。しかし、クロス集計の結果から、授業に興味があると答えた学生は、およそ半数がほぼ満足と回答しています。授業への興味を失うにつれ、満足していると答える割合は減少していきます。



全体の38.9%の学生が授業の満足度は「40~60%未満」と回答しています。多数を占めるこの層に対して、授業に対する興味を持たせるなどして、満足度を高めていくことが今後の課題であると言えるでしょう。

一方で、社会人学生や留学生は比較的高い満足度を示しています(ほぼ満足が社会人学生で69.3%、留学生で50.0%)。また、大学院学生も高い満足度を示しています。

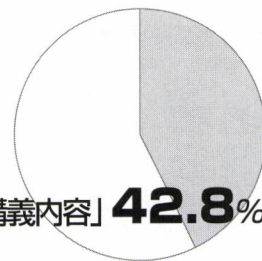




3. 授業は講義内容で選択



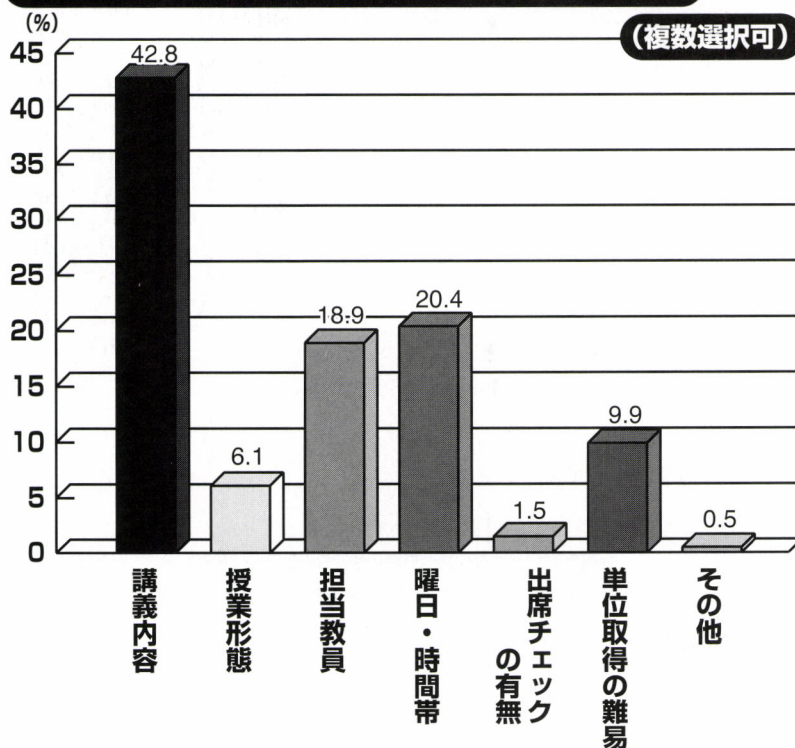
授業を選択する基準はやはり「講義内容」**42.8%**



授業を選択の鍵としては、やはり「講義内容」が第1位に挙げられています。担当教員も優先順位が高くなっています。同じ教員の同系列の授業に興味を持ってこれらを集中的に履修することは、好ましいことと考えられるでしょう。また、「曜日・時間帯」も高順位にあります。オープン科目や、f-Campus など、学部の枠を越えた科目履修が可能になっているため、移動時間や所属学部の履修科目とのかねあいで、曜日・時間帯が考慮されることを反映しているとも考えられます。

一方で、授業に対する満足度が低い学生は、「出席チェックの有無」に高いウエートを置いて科目選択を行っているようです。また「単位取得の難易」も比較的高いウエートを占めています。

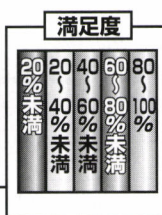
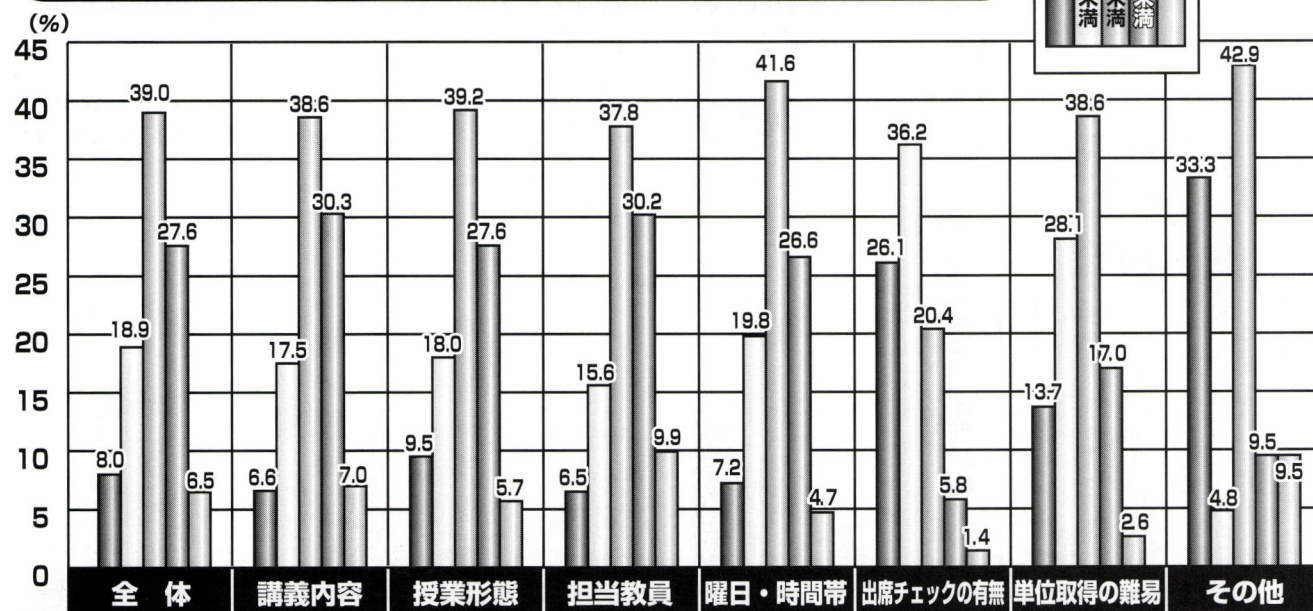
あなたが授業を選ぶ際に重要だと思う要素は何ですか？



(複数選択可)

これまでの授業の満足度はどれくらいですか？

／あなたが授業を選ぶ際に重要だと思う要素は何ですか？ (複数選択可)





4. 出席率は学年が上がるにつれ低下



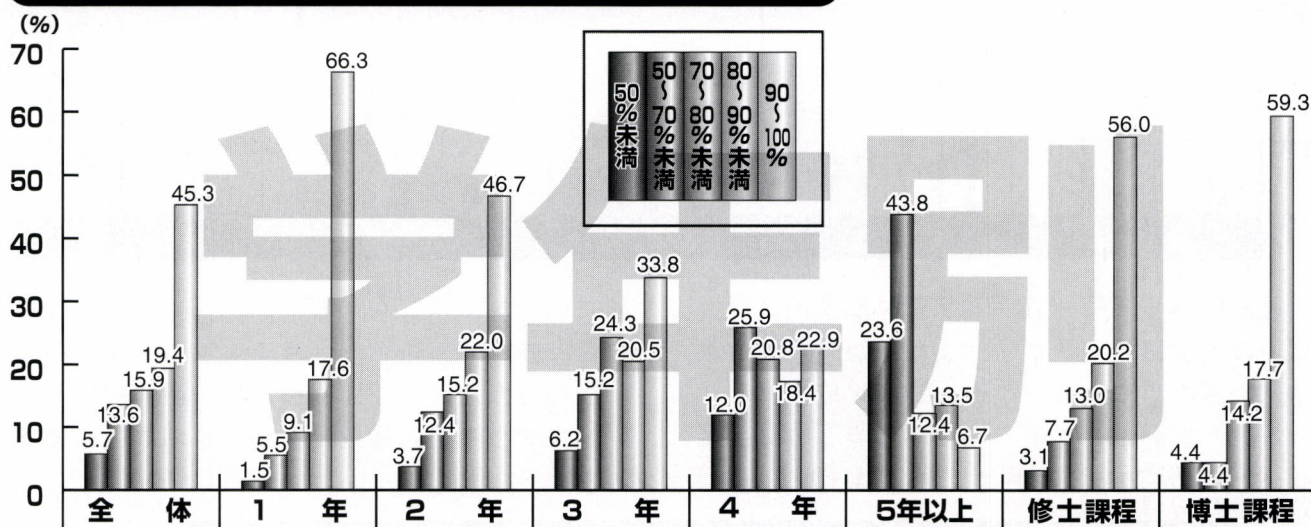
1、2年生で高かった出席率も3、4年生で低下
4年生は就職活動の影響が大きい？

全体としては比較的高い出席率です。これを学年別に集計してみると、やはり、学年が上がるにつれて授業への出席率が低下する傾向が顕著に表れています。アンケート調査時期が5、6月であったことを考え合わせると、就職活動のため4年生の出席率が低くなっているのは仕方がないことかもしれません。4年生の前期の出席率を高くできない分、3年生時に積極的に授業に出席すること

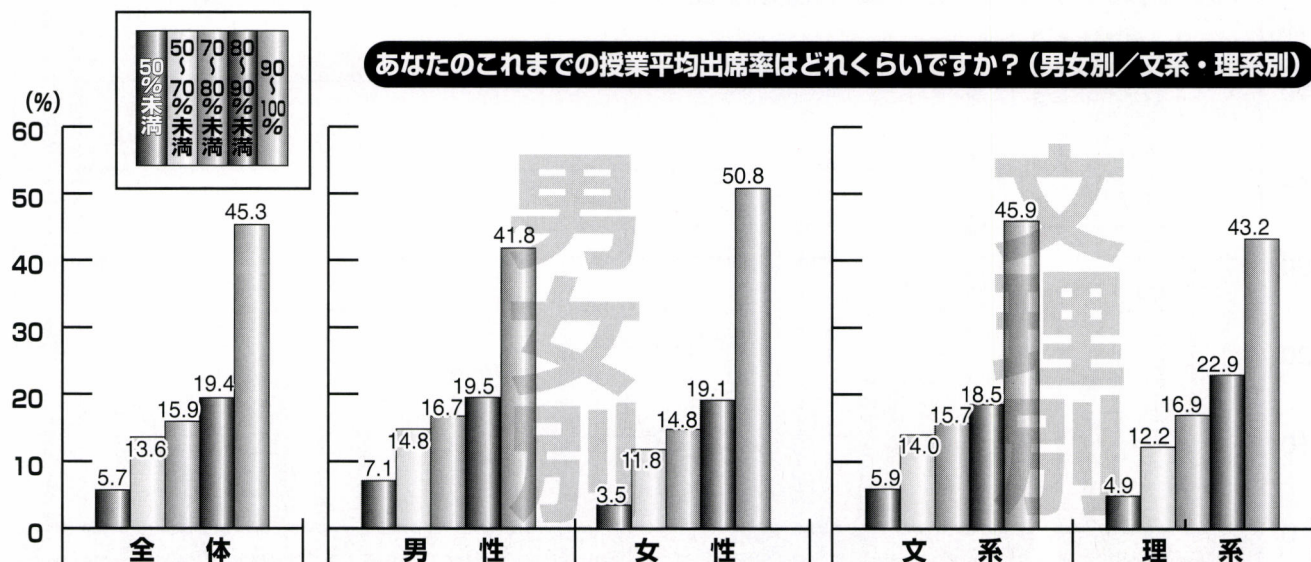
が重要になると考えられます。

入試形態別にみると付属校進学者の出席率が低めであることも注目すべき事実です。一方で、大学院学生、社会人学生・留学生は非常に高い出席率であり、授業に対するモチベーションの高さのうかがい知ることができます。性別では、女性の出席率が高くなっています。

あなたのこれまでの授業平均出席率はどれくらいですか？（学年別）



あなたのこれまでの授業平均出席率はどれくらいですか？（男女別／文系・理系別）



教員との
コミュニケーション

5. 教員とのコミュニケーションが重要

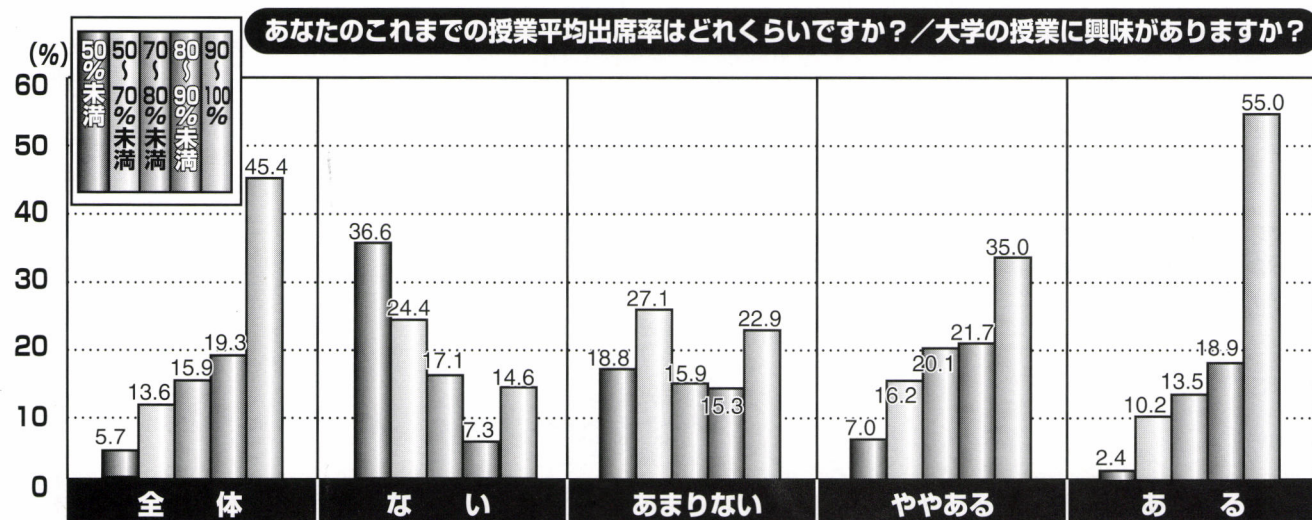


履修した講義には興味を感じている

また、教員とのコミュニケーションが大学への満足度を高める

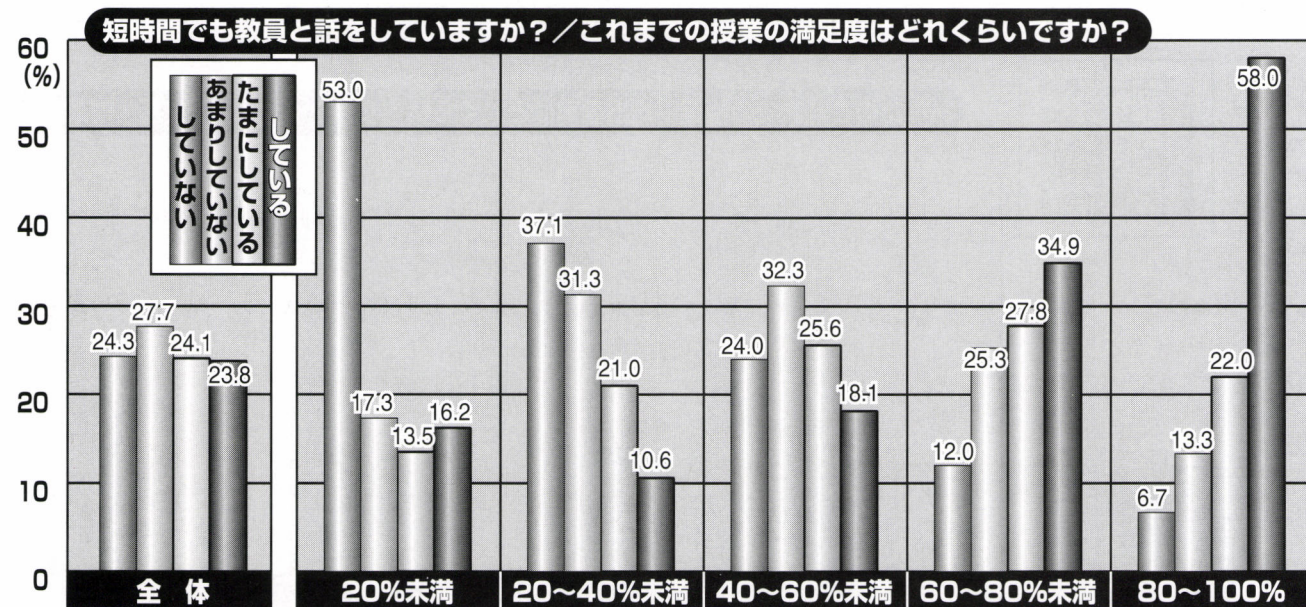
P.4で示したように、授業に興味を持っていると答えた学生は、他の学生より高い授業の満足度を示していますが、授業への興味が満足にど

のように結び付いていくのかをクロス集計の結果から検討してみます。



授業に興味を持っている学生は授業出席率が高いことが確認できます。また、短時間でも教員と会話をしている学生が高い満足度を示していることが分かります。教員が学生と積極的にコミュニケーションをとるよう心がけることが、

満足度の向上につながると考えられます。専任教員とのコミュニケーションの場として、授業前後の時間だけでなく、研究室や教員室でのオフィスアワーが積極的に活用されることが望まれます。



勉強時間と
図書館の利用

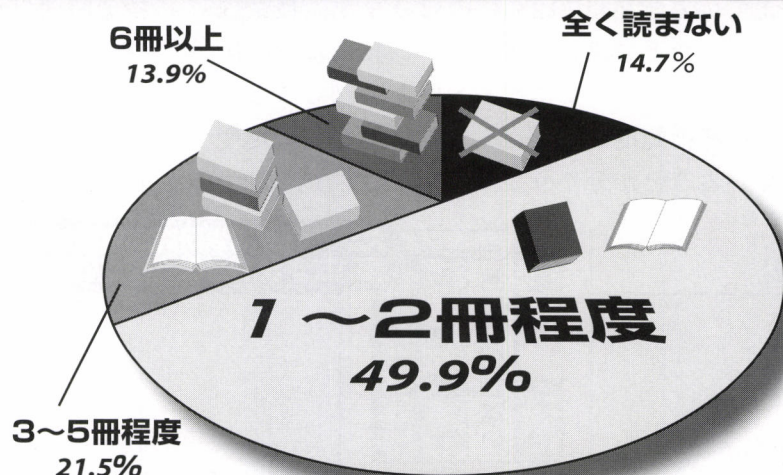
6. 授業以外の勉強・研究時間は 週5時間程度



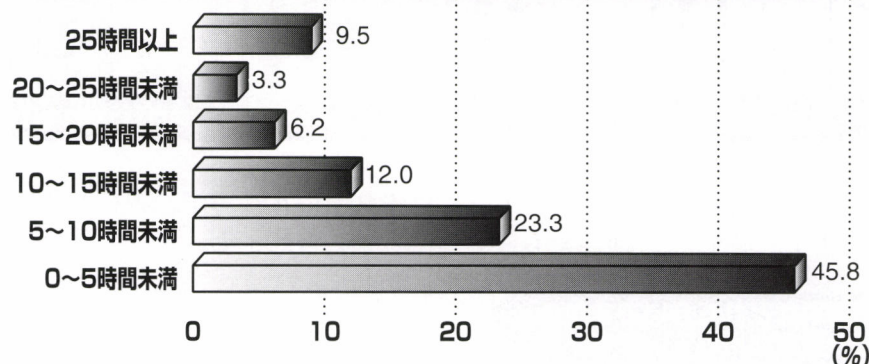
毎月1、2冊の本を読み、週に5時間程度勉強する

多くの学生が教科書・専門書を月に1～2冊は読み、週に2～3回程度、図書館や学生読書室を利用しています。また、授業以外の勉強時間は5時間程度であるとの回答が多数ですが、25時間以上と回答している学生も約9.5%います。これらの学生は、将来の進路として、「大学教員」、「各種資格試験受験」を挙げっていますが、中には、起業に向けて勉強している学生も見受けられます。

研究・勉強のために教科書・専門書・教養雑誌を月に何冊読みますか？



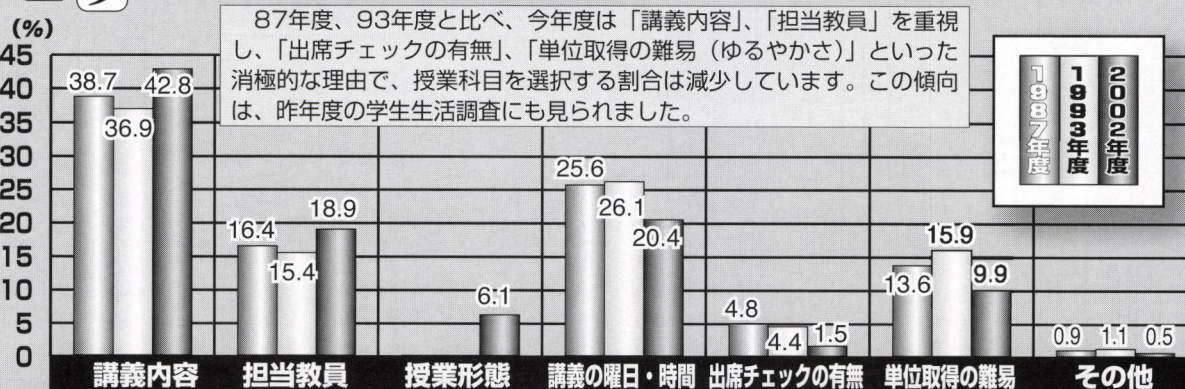
自宅・図書館・ダブルスクール等で行う、大学の授業以外に研究・勉強時間は週平均でどれくらいですか？



勉強時間は学年が上がるにつれて若干減少する傾向がありますが、4年生になると勉強時間が多少増加するようです。就職活動の講義への影響を取り戻す、あるいは、進路が決定した学生が、残りの学生生活の中で重点的に勉強を始める、資格試験の準備などの理由が考えられます。

コラム

授業選択時の重要要素（経年変化）



1987年度、1993年度の調査には「授業形態」の選択肢はありません。

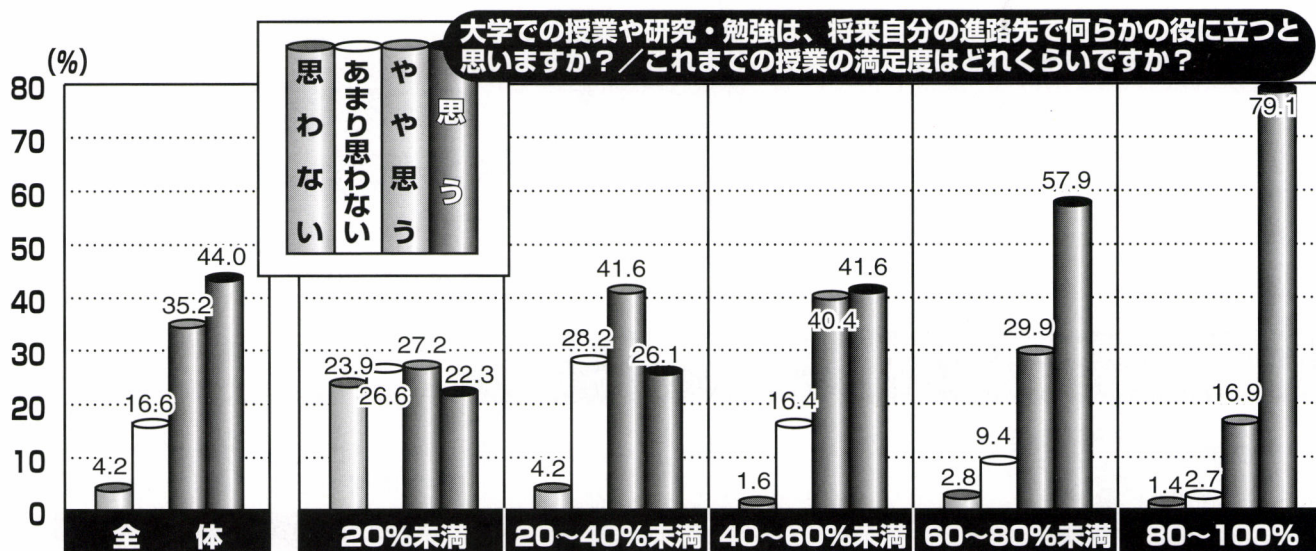


7. 大学で得たものは進路先でも役立つ

POINT → 大学生活で得た知識・能力が進路先で役立つと「思う」**44.0%**、
「やや思う」**35.2%**。その傾向は授業の満足度が高い学生ほど顕著

大学での授業・研究が進路先で多少でも役立つと考えている学生は79.2%にのぼります。授業内容を検討した上で講義選択を行い、授業にほぼ出席し、教員とのコミュニケーションも図ることができている模範的な学生は、授業から高い満足度を得ていることが分かります。このような学生は、

大学図書館・学生読書室の利用率も高く、大学の授業時間以外の勉強時間も長いという傾向が表れています。結果として、身に付けた知識・能力が将来の進路決定に役立つと考えている割合が、他の学生に比べて断然高いという結果は当然といえるかもしれません。



一方、満足度が低い学生も約半数が大学での教育が何らかの形で役に立つと考えています。満足

度として大きくは表れていませんが、潜在的には期待をもっていると考えられます。

